

コロナ禍生活で見えたもの

鶴田町立鶴田中学校

三年

奈良

こころ

世界中で猛威をふるっている新型コロナウイルス。まさか、ここまで自分達を苦しめるものとは最初は思ってもいませんでした。学校が一か月以上休校になり、青森県の感染者数も増え、ついには隣の五所川原市にも感染者が出たときは、一気に恐怖心が強まりました。また、自分が小さい頃からテレビで見ていた志村けんさんも亡くなりました。このウ

イルスは、こんなにも一瞬で人の命を奪ってしまうものなのか、と胸が締めつけられるような思いになりました。

そして、休校を通して感じたことがあります。それは「自由」についてです。

人間は本質的に自由を求めているわけじゃない。不自由の中に、息継ぎみたいに自由が混じるからいいんだ。休息は愛せても、暇は愛せない。

これは、最近私が読んだ小説に書いていた

ことです。これを読んで、私は深く共感しました。なぜなら、私の休校中の過ごし方により、同じようなことがあったからです。

私は平日、授業や部活でハトハトになつて帰ってきますが、休日はその疲れをとるべく自分の好きなことをして過ごしています。しかし、休校中はあまり勉強をしない締まりのない生活が続いたので、早く学校に行きたいなあれとたびたび思いました。

今は学校でしつかり過ごせていますが、たまに「疲れたな、自由なことしたいな」と思うときがあります。でも、こう思えるのはいつも頑張っているからで、だらだらしてればこうも思わないうか」と感じました。

新型コロナウイルスによって様々なことが変わり、中には大切なものを失った人もいます。当たり前だと思っていた日常や、家族や友達の大切さを改めて実感しました。一刻も早くこのウイルスが終息し、平穏な日常になることを強く願っています。